

企 画 北九州市/北九州市教育委員会/北九州市人権啓発推進協議会
 制 作 株式会社学研教育みらい/株式会社学研教育出版
 監 音 こぐさあつこ
 声の出演 古城隼/首セイラ/相田さやか/矢田晴司
 DVD/ビデオ(字幕・別音声入りもあります) 平成24年3月制作 上映時間31分



虹のきずな

制作のねらい

情報不足や偏った情報、あるいはそれに基づく不正な知識や思い込みは、同和問題やHIV感染者・ハンセン病患者等に対する差別に限らず、東日本大震災後の放射能汚染を巡るいじめや治療拒否など、さまざまな人権問題を引き起こす原因の一つと言えます。その点を踏まえて、この映画では、差別に対する「傍観者」あるいは「無関心」という立場に焦点を当てました。そして、さまざまな問題を自分の問題として引き寄せて考えること、人と人とがしっかりとコミュニケーションを取ること、お互いを一人の人として認め合うこと、自立した考えや行動を取ること…の大切さを伝える作品を目指しました。

学習のポイント

- 人の「痛み」を感じるチカラ、ありますか? → 人の痛みに気づく
- なぜ、相手のことを見ようとしなないの? → 違いを認めよう
- 人の気持ちを感じ取って、お互いの思いを伝え合おう → 想像力を発揮する
- 楽しみを喜びに変えるチカラは、一人一人の心の中にある → 心で受け止める
- それって、助けてあげないのと同じじゃないの? → 傍観者からの制度
- 友達や友達は友達? それとも他人? → 感じる心の強さ
- 気づき、そして、踏み出す勇気の一歩 → 勇気ある一歩を

特別編集版
 「ユーナの樹とトモチ」編
 (16分)収録

他に人権啓発映画予告編
 人権の約束運動CM収録





あらすじ

大学生のひかりは、小学校の図書館で読み聞かせのボランティアをしている。しかし、うまく感情をこめて絵本の読み聞かせができないひかりは、子どもたちの評判も良くない。ひかりは、ボランティア仲間の恵に上手に読み聞かせをする方法を聞いてみたが、恵の答えは「本を読んで感じた気持ちを伝えればいい」。それは、小さなことから人づき合いが苦手なひかりにとって何よりも難しいこと。そして、いつも独りぼっちで図書館にいる男の子、ワン・タオロン(王 道栄)もまた同じだった。中国から日本に来たタオロンは、下手な日本語を笑われるのが嫌で、クラスメートになかなか話しかけられずにいた。そんな態度が誤解を生み、いじめられるようになってしまったのだ。

ある日、絵本を読んで泣いているタオロンに気づいたひかりは、その絵本「ユーナの樹とトモダチ」を読み始める。そこには、葉になる花を求めてよその島からやって来た鳥・リンクをめぐる動物たちの姿が描かれていた。「よそ者だから」という理由だけでリンクを遠ざけようとする者。関わるのは面倒だからと、傍観する者…。しかし、リンクの話を知りたいと思っていたサルの子・モンチャだけは違っていた。モンチャはリンクの言葉を理解しようとしたのだった。

絵本を読み終えたひかりが、あらためて作者の名前を確かめると、そこには「はまだかいと」の文字。かいと…かいと…。ひかりの記憶がよみがえる。小学生のころ、無口なためにいじめられていた海人。いじめに巻き込まれるのが怖くて、知らんぷりをしてしまった自分…。絵本の中の動物たちの姿に、自分の姿が重なる。あのときの自分は、傍観する動物たちと同じ。今だって、独りぼっちで寂しそうにしているタオロンに声もかけてあげられないじゃないか。ずっとずっと、自分は変わらないまま生きてきたのだ…。うつむくひかりに恵が言う。「でも、今は変わろうとしているじゃない。だからボランティアも始めたんでしょ?」と。

図書館の外には、クラスメートに傘を隠され、涙をこらえるタオロンがいた。雨の中を駆け出すタオロンを夢中で引き止めたひかりに、タオロンも少しづつ心を開き始める。

人権文化の新たな潮流を

北九州市人権啓発映画制作に関する検討会議委員長
北九州市立大学地域創生学群教授

中島俊介

この映画は、地域に人権文化を醸成したいという願いの中から生まれました。「人権文化」という言葉は「人権教育のための国連10年」(1995～2004)を機に広がった言葉です。その趣旨は一人一人が自発的な意志に基づいて、人間を尊重し、生命の尊厳を守り抜いていく生き方を、地域を挙げて文化的な気風として根付かせ、伝承させていくことを目指すものです。

東日本大震災の津波で、5メートル以下の堤防しかない釜石市では、かえって堤防の高さに依存することなく迅速に行動し、ほとんどの小中学生が助かりました。古くから三陸に伝わる「津波でんでんこ」(でんでんではらばらに逃げる)の防災教育が徹底されている。だからだといわれます。この言葉によつて、「大切なものを守るには自立的な行動を取ることが大事であること」「何かに依存しては危険であること」を伝承してきたのではないのでしょうか。

「人権文化を築くための運動」は緒に就いたばかりです。次の世代につなぎ、運動としてずっと継続していかなければなりません。文化とは固定的なものではなく「人」に体得、体現されて初めて現実

に脈動してゆくものです。そのためには、運動を深化し拡大する次の担い手(子どもたち)を育てる必要があります。今回の啓発映画はその点でも十分活用できる内容となっています。私たちは、地域の歴史と伝承を身体に刻んできたユナじいさまの知恵と態度を学び、リンクやひかりやタオロンの勇気ある行動を学びたいと思います。この小さな作品がきっかけとなって、「人権文化の花を大きく咲かすんだ」という気風が市民間に強く脈打つ新たな潮流を生み出す一歩となれば幸いです。



この作品は下記のとこで貸し出しを行っています。

- 北九州市人権推進センター
TEL (093) 562-5010
FAX (093) 562-5150
北九州市小倉北区大手町11-4
大手町ビル(ムーブ)8階
- 区役所コミュニティ支援課
(小倉北区・小倉南区・戸畑区を除く)
門司区 331-1881 内線642
若松区 761-5321 内線644
八幡東区 671-0801 内線641
八幡西区 642-1441 内線641
- 北九州市立視聴覚センター
TEL (093) 561-3131
小倉北区城内4-1
- 地域交流センター
新門司 481-4599 徳力 961-0175
下富野 521-3266 嬉田 961-0964
貴船 921-5303 楠橋 617-0308
山田 581-4159 木屋瀬 617-7980
北方 931-6594
- 生涯学習総合センター(小倉北区) 571-2735
- 小倉南生涯学習センター 931-1286
- 戸畑生涯学習センター 882-4281